

地域戦略 1

戦略名：人材育成と先端技術の活用による安足園芸の発展

(1) 対応方向

安足地域では、南部の水田地帯を中心にいちごやトマトなどの産地が発展し、園芸を志向する新規就農者の割合も高いなど、園芸が地域農業をリードする存在になっていますが、担い手の高齢化が進展する中、新たな担い手の確保と収益力の高い経営体を育成していくことが産地の持続的発展を図る上で重要となっています。

このため、就農相談から営農定着までを一貫して支援する体制の充実や就農関連情報の発信強化を進め、新規就農者の確保・育成に取り組みます。また、新品種の導入や環境制御技術等の先端技術の活用、分業体制の構築などにより、高い生産力を持つ経営体を育成し、稼げる産地づくりを進めます。

(2) 主な指標

指標項目	現状(2019)	目標(2025)
主要園芸品目の新規就農者数 ^{※1}	36人/5年間	45人/5年間
主要園芸品目の中核経営体数 ^{※2}	28経営体	33経営体
主要園芸品目農家の単収増加率 ^{※3}	100%	110%
先端技術導入割合（経営体） ^{※4}	26.2%(59経営体)	36%(81経営体)

※1いちご、トマト、アスパラガス、トルコギキョウ、なし

※2 農業関連販売金額 3,000 万円以上の経営体

※3 JA 扱い園芸品目の販売実績

※4環境モニタリング・環境制御装置等、AI やIoT、ロボット技術、パイプレール等を活用した省力技術、ジョイント栽培法等導入数/部会員数



たわわに実るいちご



トマトのハイワイヤー誘引栽培



ハウス一面に咲き誇るトルコギキョウ



いちごの出荷規格を学ぶ新規就農塾生

(3) 取組方策

【新規就農者の確保・定着】

- ① 新規就農者の確保に向け、県内外で行われる就農相談会での積極的なPRや、SNS等を通じた就農情報の発信強化を進めます。
- ② 新規就農塾の受講対象品目の拡大や就農に向けた体験型講座の実施、就農後のネットワークづくりなどのフォローアップ活動を支援し、新規就農者の確保・定着を図ります。
- ③ 就農支援ネットワーク会議が核となり、地域の経営資源（農地や施設・機械）を把握し、新規就農希望者への円滑な継承を支援するとともに、両市の空き家バンクとも連携して情報提供・相談活動を行います。

【安足園芸の発展】

- ① AIやIoT等、先端技術の導入にあわせた活用方法への理解促進を図り、管理の省力化・効率化を進め、生産性の一層の向上につなげます。
- ② 適切な労務管理による働きやすい環境づくりを支援し、雇用労力の確保・定着を図ります。
- ③ 育苗や出荷調整作業の軽減につながる施設整備を推進し、園芸品目の産地拡大を図ります。
- ④ 果樹のジョイント栽培法等の早期成園化技術と地域に適した品種により、新植や老木園の改植を推進し、収益向上を図ります。
- ⑤ 園芸経営のさらなる発展に向け、人・農地プランの実行を通じて土地利用型経営体等への水田の集積・集約化を進め、園芸の専作化を支援します。

(4) 推進体制と役割分担

